

ハンス・ウルリッヒ グリム
『悪魔の鍋「食」のグローバル
化が世界を脅かす』（家の光協
会 一六〇〇円＋税）は恐ろしい
本だ。あまりの恐ろしさに身の
毛がよだつ。

食料がアッチの国からコッチ
の国に簡単に移動するようにな
った今、我々はこの国のどん
な農場でどんな農薬を使ったの
か分かんないものを食わされる
というタマンナイ状況にある。

この本は、そのタマンナイ点も
鋭く指摘しているが、特に驚か
されるのは食料を工場で大量生
産して世界中に供給している大
企業の非人間性だ。消費者の健
康なんてそっちのけで、利益追
求ばかりに走っているのだ。そ
して、大企業に加担するようない
イイ加減な研究報告をしている
研究者達。この本は、そうした
大企業や研究者を实名で暴いて
追及している（誰でも知ってる
有名企業の実名がバンバン出て
くるので呆然！）。それでい
て、著者はどこからも誰からも
告訴されていないというのだから、全部ホントのことと考えて
イイのだろう。となると、外見
がどんなに綺麗な食べ物を前に
しても、何が添加されているか分
かつたもんじゃなないなあと考え
込んでしまう。

この本の最後で、著者はイタ
リア式生活様式を推奨してい

る。イタリア人は大企業が生産
して大スーパーが売っている食
料を食べたりせずに、素材から
自分で調理するという、ゆとり
ある生活をしているというのだ。
著者はドイツ人なので、特
にイタリアをヨイシヨシなきや
なんない理由はないわけだから、これはホントのことなのだ
ろう。

では、どうみたってイタリア
人のような見事なまでの陽気さ
を持ってない我々日本人はどうし
たらいいのか？ 選択肢は三つ
しかない。①どうせいつか死ぬ
んだから何でも気にせず食っ
ちゃ（ヤケクソ派）。②ジック
リと考えて健康にイイ食べ物だ
けを選ぶ（慎重派）。③普段は
ヤケクソ派だが、時々思いつい
たように慎重派にもなってみる
（優柔不断派）。ちなみに、私は
優柔不断派。

×月×日

ここから先は、ヤケクソ派の
方は読む必要ありません。何の
役にも立たないので、すぐに次
の頁にでも進んで下さい。慎重
派と優柔不断派の方だけが読ん
で下されば結構。

金丸弘美という人を知ってま
す？ 性別不明の名前だが、男
性。この人のことを私が初めて
知ったのは、一昨年末に出版さ
れて話題になった『スーパール

都市の野獣クマネズミの
恐怖！』（徳間書店）という本を
読んだ時。病気を媒介するな
ど、人間に被害を及ぼすネズミ
が都市で激増している状況を詳
しくルポした本。実に面白い本
だとは思ったが、こんな気味悪
いことをルポする人って一体ど
んな人なんだろうとも思った私
は、この人が書いた本はいつも
フローすることにした。そし
て、この人はネズミだけの専門
家ではないし、気味悪いことだ
けを扱っているわけではないこ
とを知った。この人は、意外な
ことに、健康食品、安全食品、
有機食品に関するガイド本を沢
山書いているのだ。これが結構
イイ本ばかり。例えば、『こた
わりの有機食品産直ガイド』
（日本文芸社）、『東京 おいしい
野菜ガイド』（情報センター出版
局）など。どの本もヤケクソ派
ではない人の食生活に欠かすこ
との出来ない情報が満載されて
いる。でも、私が一番気に入っ
ているのは『産地直送おいしい
ものガイド』（講談社文庫 一
四三円＋税）。日本全国の、安心

して食することが出来る美味し
い食べ物、飲み物が詳しい解説
とカラー写真付きで紹介されて
いる。もちろん、産地から直に
届けて貰う方法や値段も。産地
といっても、農園や生産組合も
あれば、まったくの個人まであ
る。よくもまあこんなに調べた
もんだと、その根性に感心。ヤ
ケクソ派ではない人にだけ薦め
る。心に沁みる本。

ついでに書いておくと、この
人は、昨年から日本でも本格的
に始まった「スローフード運
動」に熱心に参加している。ス
ローフード運動とは、元々はイ
タリアが始めたもので、本来の
地域に育った味を子供たちに継
承していこうという運動。ナン
ト、またしてもイタリアです
よ、イタリア！ 食い物に関す
るイタリア人のこだわりって大
したもんなんですね。

ところで、テロリス
トのような顔の私を誤
解するのは日本人だけで
はない。例えば、アメリ
カに入国する時、私はい
つも空港で荷物を完膚な
きまでにチェックされ
る。服のポケットの中ま
で徹底的にチェックされ
る。さらに、別室に連れ
て行かれて、服を脱げ
と言われたことまであ

る。さすがにこれには私も驚い
て、何で？ と質問した。麻
薬を打った注射の痕を調べるた
めだ。だって。で、私は素直に
脱ぐしかなかった。でも、私に
は言いたいことがある。人を外
見で判断しちゃう駄目だ。そんな
ことしてるから世界に平和が来
ないんだ。ずる賢い麻薬シンジ
ケートのボスは、私のようなイ
カニモといった顔の男を運び屋
に使うなんてヘマはしない。人
の良さそうな顔をしたヤツこそ
を徹底的に調べるべきなのだ。
人を外見で判断してはいけない
い。もちろん、食べ物も外見で
判断してはいけない。

（文中敬称略）

『私の読書日記』は、池澤夏
樹、米原万里、向井万起男、
立花隆、鹿島茂の五氏が毎週
交代で執筆いたします。



『産地直送おいしいものガイド』

サラサ
SARASA
ノック式ジェルインク(水性顔料) ボールペン
サラサラ書き味、全10色で新登場。

ZEBRA®
This is a Pen.